

7 服部 美穂 さん Miho Hattori



中南勢

万協製薬株式会社（多気郡多気町）
品質管理部

事業所

住所：三重県多気郡多気町五桂 1169-142

URL：http://www.bankyo.com

社員数：170名

業種

医薬品・医薬部外品
化粧品製造



Profile

- ・大阪府のメーカーで研究職に従事
- ・夫の転勤に伴い三重県に転居
- ・理系職を求め現職場に再就職、妊娠
- ・2児を育てながら職場改善に取り組み中

講演・相談可能分野

- 仕事と家庭の両立 育ボス
- 人材育成 障がい者雇用 起業
- NPO 設立 多文化共生
- 地域資源活用 防災
- その他（ワーク・ライフバランス）

講演実績

- ・2016年「女性の再就職に関するサロン」
～女性が活躍する職場について
(三重県・株式会社百五経済研究所)
- ・2016年「企業と女子学生との意見交換会」
～男女ともに働きやすい職場とは
(三重県・株式会社百五経済研究所)

「私の使命」

出産後も働く道をリケジヨ目線で開拓

「研究職には整った設備や環境が不可欠。リケジヨの私は、組織で働く道が最適だと考えました」。

妊娠・出産を経て、現在は小学4年生と1年生の子育てに励む服部さん。夫婦ともに県外者なので「ジジババの手助けなしで、勤め続ける方法を模索してきました」。勤務先は1996年に移転・再操業したフレッシュな企業。服部さんが育休を取得した当初、取得経験者はまだ2人でした。「そのころ印象的だったのが、社長面談の言葉です。『会社を利用して、やりたい事を叶えて欲しい』と」。その言葉通りに実践してきたと笑顔で振り返ります。

「社長の隙を見計らい、要望を直訴します。特に社長の筋トレ中は絶好のチャンス。耳は空いていますからね」。

子育て社員が快適に働ける会社に

万協製薬はこれまで、子育て支援に関する取り組みで、数々の賞を受賞。代表的なものには、内閣府『子どもと家族・若者応援団表彰』2014年度内閣総理大臣表彰など。受賞理由には、社内制度の充実も含まれます。例えば3年取得可能な育児・介護休業制度、小学校卒業まで可能な時短勤務制度など。

「これらは私達パパママ社員を見て、会社が新たに導入してくれた制度。仕事と家庭の両立で長年苦労してきた専務（社長の妻）・松浦慶子さんの働きかけも大きいです」。

せっかくの制度が形骸化しないよう、また働き方改革を一層進めるため、服部さんは「株式会社ワーク・ライフバランスの認定コンサルタント」の資格を取得。より良い企業風土の醸成に努めています。

私流リーダーシップ

働く私達の悩みは“会社の課題”

「面談などの折に触れ、私が求めていることを会社に伝えてきました」。育休から復帰した服部さんは、同じ立場の社員と情報共有したいと会社に相談。『万協母の輪会』が結成されました。

その後、育児の悩みが男性社員にも共感されることを知り、『万協パパママ会』へと拡大。会で寄せられた疑問に答えるため、『ワークライフバランス推進委員会』の委員長になり「パパの育休取得説明会」「ライフプランセミナー」なども開きました。

「私達の悩みは“会社の課題”として社長に伝え、解決に必要な予算をいただき、問題をクリアしています」。

服部さんの取組は社外にも伝わり、三重県少子化対策推進県民会議の委員としても積極的に発言しています。

役割分担を固定しない。活動は自由！

『万協パパママ会』にはメンバーの名簿も役割分担も「ありません」。「理由は、その方が誰にも負担がかからず、会が長く持続できると思うので。私は声掛けをして、雰囲気づくりをしている程度」。

声掛けによる雰囲気づくりは、所属部署でも同じと言います。服部さんの業務内容は現在、製品原材料の品質試験。6人いるメンバーのうち、時短勤務者は服部さん1人です。

「仕事はリーダーから個々に振り分けられますが、お互いの仕事内容を“見える化”し、声掛けし、仕事の混み具合を相互理解しています」。

実際に職場にお邪魔すると、とても和気あいあいとしたムード。「私達企業の取組みが、もしも会社の外にも広がるならとても嬉しいです」。

(取材時：2018年8月)

こんな講演・相談に対応できます

- 自社の働き方改革 取組事例の紹介
- 男性の育休取得と課題解決
- 祖父母を頼れない子育ての工夫
- 社内任意サークルの持続化アイデア

お問い合わせ先

三重県 ダイバーシティ社会推進課

TEL：059-224-2225

WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEBは
ここから

